

2026年8月

六千人の命を救え！

外交官・杉原千畝

白石仁章

また児童書での紹介になります。もちろん一般書もあるのですが、第二次世界大戦中に迫害された多くのユダヤ人を救った命のビザの話についての流れを読み直したい方におすすめです。

そもそも現代と世の中の仕組みも違えば考え方も当然異なり、はたまた戦時中という中での出来事ですので、わからないことだらけなのですが、人の命を救おうとした決断に多くの方が共感しこのように美談として後世に伝えられています。国家公務員は法律によって職務上守らなければならない義務があります。しかし、一刻を争うのです。目の前には命のある多くの人々が自分だけを頼りに集まってくるのです。その時、千畝さんは英断をくだします。この決断は一生にあるかないかくらい大きな出来事で、決して忘れることのできない出来事のはず。このことが多くの人々の命を救い感謝され、人道的にすばらしいと賞賛されたことが人間の本質にまでせまる素敵な話だと感じています。

